

自己評価結果公表シート（2017年度）

1. 経営方針

【建学の精神】

幼児への教育は、幼児の健全な成長発達に欠くことのできないものであり、一般社会人すべての責務である。特に就学前の幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担うため、適当な環境を与え、人と関わる力や思考力、感性などを育み、人間として、社会と関わる人として、生きていくための基礎を培うものである。今回、これらの趣旨を基に吹田市山手町に於いて地域に幼児教育の施設を設け、人間性豊かな社会人を育てるために貢献したい。

【教育方針】

幼児期は、周りの環境に興味関心を持ち、「見たがりや」「やりたがりや」「知りたがりや」である。そこでこの特性を生かし、「気づき」「考え」「工夫する」ことで自分の考えで行動できる子どもを育てたい。

【教育目標】

人間性豊かな子ども

1. たくましさのある子ども（何事もくじけないたくましさ）
2. やさしさのある子ども（豊かな感性と他を思いやる心）
3. かしこさのある子ども（気づき、考え、工夫し行動する）

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

自己信頼ができる子を育てるため、何事にも興味を持ちやすい環境を作り、意欲をもって、考え行動を起こす子どもに育てるよう保育者が創意工夫をした保育をする。

1. 子どもが主体的に遊ぶための保育時間の工夫

保育時間の配分を毎日の練習を積み重ねる保育主体ではなく、クラスの子どもたちの様子を見て、その日の保育時間の配分を作り、個々のクラスが、全体練習だけでなく、個々の子どもたちの遊びを中心とする保育になるように工夫する。

2. 子どもが主体的に遊ぶための環境の工夫

<図書室>

子どもの興味・関心を捉えたり、発達過程に合った本を保育者が提供したり、子どもが自ら選んだ本に興味を持たせたりする。

<保育室>

子どもが主体的に遊ぶための様々な教材を配置し、子どもが自ら選び、考え、工夫できるような環境の構成をする。(LEGO・ラキュー・紙コップ等)

<園庭>

子どもが主体的に遊ぶことができるように土の山を作り、水は高い所から低い所へ流れる仕組みを知ったり、水をせき止めダムを作ったりできるよう、砂場では体験できない環境を構成し科学的思考の芽生えの場を作る。

<観察園>

季節に合った野菜(サツマイモ・大根・ナス・キュウリ等)を各学年で選び、観察園の畑で育てる。種から育てる栽培活動をする事により、植物の成長や命の大切さを知らせていく。また、各クラスで採れた野菜を使い、自分たちで栽培し、食べることで、食べ物大切さを知らせる。

3. 評価項目の達成状況及び今後の取組みについて

①信頼される幼稚園

	具体的な取り組み内容 (教育方針)	実施した事業の内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み
信頼される保育者	子ども一人ひとりに応じた言葉がけをしたり、目を見ながらじっくりと話を聞いたり等ふれあいを大切に、子どもが安心して幼稚園生活が送れるようにする。	・子どもが主体的(自分から進んで楽しんで)に遊べるごっこ遊びの内容を工夫する。 ・子どもの活動を捉え、ごっこ遊びに繋げる。(ヒーローごっこ・おうちごっこ・食べ物屋さんごっこなど)	○ごっこ遊びの内容を保育者が把握することで子ども一人ひとりに応じた言葉で関わる事ができた。 ●ごっこ遊びの中で自分なりの表現ができにくい子へのかかわり方を確実にしていきたい。
	試したり、工夫したりしながら、夢中になって遊び込めるような保育に努める。	夢中になって遊べる空間、時間を保障していくための一日の生活を工夫した。特に、登園後の自ら遊ぶ活動の時間の確保を中心に考えた。	○登園後の遊びに目標を持ち、遊ぶ子どもが多くなってきた。 ●行事前の活動は、学年全体の活動が多くなり、子ども主体の遊びの時間を確保できにくくなるので、行事を精選していきたい。
安全・安心な幼稚園	子どもが安全で安心して保育・教育を受けられるように、職員の危機管理意識を高め、月1回の遊具の安全点検や年間計画に応じた避難訓練を行う。	月1回の安全点検日を決め、職員が分担して点検を行い点検表に記入している。また、不審者と防災訓練を各月に行っている。	○避難訓練の回数を重ねていく事により、自分たちの役割が理解でき、主体的に訓練ができるようになってきた。 ●計画の理解が行きわたらなかつた為に、加配の子どもの支援に手惑いがあったのでより連携が取れるようにしていきたい。
開かれた幼稚園	保育参観・行事等で、教育方針や取組などを積極的に説明し、保護者や地域の人々の幼稚園運営への理解と協力を進める。	入園説明会や運動会・生活発表会でその都度、本園の教育方針を話す。運動会では、園で親子の触れ合いを楽しむために、親子競技を取り入れた。	○子どもの遊びに関心を示す保護者が増えきた。 ○運動会や生活発表会では多くの地域の人に参加してもらった。 ●様々な人とも関わりを体験するために隣の老健等の人々と触れ合えるようにしていきたい。
	具体的な目標を設定して、自己評価や学校関係者評価を行い、内容や成果等を保護者や地域に積極的に公開する。	運動会や生活発表会子どもたちが主体的に目標をもち、本番に向かって取り組んだ。 ・運動会:とまどちと力をあわせて ・生活発表会: 3・4・5 歳児の発達段階を考慮した学年別の目標をもった。	○運動会や生活発表会は、子どもの発達状況に合わせた内容をする事について話し合いを十分持つことができ、子どもは自信を持つ機会になった。 ○作品展では、それぞれの年齢毎のテーマを持ち、子どもたちが楽し

			<p>く参加することができた。</p> <p>●作品展では、子どもが作品展当日自分たちで作った作品で遊ぶことが出来たが、作品展翌日には壊してしまった為、子どもたちが十分に遊ぶことができなかったため、次年度は、作った作品でその後も遊べるようにしていきたい。</p>
特色のある幼稚園	<p>地域の実態を生かしながら、幼稚園独自の内容を考え保育・教育課程を作成し、特色ある幼稚園経営に取り組む。</p>	<p>広範囲からの通園なので、保護者同士のかかわりが薄いので、4月の始業式や学級懇談会時には、保護者同士の自己紹介などをした。多人数の良さを生かし、子どもたちが主体的に友達と力を合わせる経験をさせる工夫をした。</p>	<p>○行事を2班に分けて行った。多人数だからできる活動を中心に職員員の「できない。」→「やってみる。」の意識改革ができてきたように思う。</p> <p>●本年度の成果を生かし、次年度は、教育課程の中に、多人数ならではの活動を計画的に位置付けていきたい。(運動遊び・合奏・共同製作など)</p>

②保育者の資質の向上

	具体的な取り組み内容 (教育方針)	実施した事業の内容	○得られた成果 ●課題と今後の取り組み
健康な心と身 体の育成	遊びが充実するようにクラス目標や個人目標を決めるなどの環境を工夫し、挑戦しやり遂げる力の育成を図る。	運動遊びを中心に、成果が子どもにもわかる活動をしている。(サーキット遊びなど) ・3歳児:フープ飛び ・4歳児:縄跳び・跳び箱 ・5歳児:縄跳び・跳び箱	○体操講師により、縄跳び、跳び箱などを指導を受けるだけではなく、朝の自由時間に子どもたちが、サーキット遊びができるように跳び箱などを用意し、環境を作った。 (保育者もその場につき、安全の確保に努めた) ●行事に向かっての意図的なサーキット遊びだったので、今後、行事だけではなく、いつでもできるようにしていきたい。
	幼稚園生活の中で教師が手本となり、日々の繰り返しの中で生活に必要な習慣や態度を養うと共に、自我の確立のために我慢したり約束を守ったりする力や自立心を育てる。	本年度は、保育者がモデルになり、子どもの指導をしている。 ・トイレのスリッパを揃える。 ・給食時の箸の持ち方。	○上手に箸を持てるようになった子どもが増えた。 ○3歳児もトイレのスリッパを棚に片付ける事できるようになった。 ●廊下を走るのはいけないという約束が中々守れない。次年度にも同じ約束をして、できるようにしたい。
人と関わる育 成	人と関わる事の基礎となる「おはよう」や「ありがとう」等の習慣づける。	朝の朝礼や登下校時の挨拶を毎日し、習慣づける。 職員の方から、子どもがお手伝いをしてくれた時には、率先して「ありがとう。」を言うようにしている。	○園長他職員が不特定多数の人と挨拶する事で、保護者の挨拶に対する意識が深まった。 ●90%以上の子どもが挨拶できるように、工夫していきたい。
	子どもが自分の言葉で伝えたり、相手の思いに気づき、理解したりする力が育つように、教師は、状況に応じた聞き方や話し方ができるように工夫する。	教師の話し方・子どもの内面の捉え方を事例研修をしている。	○事例研修をすることで、子どもが主体的に話したり友達とかかわりができるよう教師の話し方・聞き方を意識するようになってきた。 ●事例研修では、現場での状況が掴みにくい所が見受けられた。また、子どもの状況を全職員が把握しにくいこともあるので、連絡、報告のしやすい環境を作っていきたい。

<p>創造する力の育成</p>	<p>考えたり工夫したりする力を育てるために、砂や粘土、自然物など可塑性があり、子どもがイメージをもって遊べる素材に出会わせる。</p>	<p>園庭の草花から色水作りをしている。砂場以外でも泥団子づくりをしている。</p>	<p>○4歳児が中心になり、ダムや川作りに夢中になっていた。教師も一緒にになり、作ったことで、瞬時の援助ができ、工夫して遊ぶことができていた。 ○泥団子作りの中で、硬いや大きいを作ると、イメージを持って作ることができていた。 ●色水遊びに使える四季の花が少ないので、園庭に植えていきたい。</p>
	<p>友だちと協同しながら、自らかかわっていこうとする意欲や探究心等を高める為に、集団遊びや園外保育での直接体験等を多く取り入れる。</p>	<p>5歳児の自然交流体験や園庭での土でできた山を使った遊びや部屋でのブロック遊びなどを通して、友だちと一緒にものを作ったり、発見したりすることが多くなった。</p>	<p>○朝の登下校などを通して、異年齢の友だちにも優しく接しることが出来ている。 ○本年度より本園近くに系列の小規模園ができ、より小さい子どもにも触れ、自分を自覚するようになった。 ●協同的な遊びや園外保育の場所など、指導計画に位置づけていきたい。</p>
<p>個に応じた教育の推進</p>	<p>子ども一人一人の行動と内面を理解するために 個人記録を書き、発達に必要な経験が得られるような保育・教育内容を工夫し、次の指導へ生かせるようにする。</p>	<p>週日案の一日の反省の中で、簡単な個人記録は書かれているが、一人ひとりを整えた記録を取っていない職員がいる。記録を保育に活かしている職員は子ども一人ひとりの育ちを捉えている。</p>	<p>○記録を書いている職員を認めることで数人は刺激を受け、記録をとりはじめた。 ●記録についての話し合う場をもっていないので、次年度は、記録の有効性について研修をしていきたい。</p>
	<p>職員全員で子ども一人一人の指導にあたるために、常に情報を共有し、チーム保育などの指導体制の工夫に努める。</p>	<p>支援の必要な子どもの様子を職員全員で把握し、個々の発達に合った保育をしている。 言葉遣い、子どもへの対応について、担任には職員会議で話し合い、保育補助者や小学校等とも連携ができるように担任と他の職員が密に連携を取っている。</p>	<p>○個人記録を基に、担任と支援員との連携を持っているため、指導のポイントは押さえられるようになりつつある。 ●日常生活の中での「育てる」という意識での指導が補助保育者には薄く、担任も遠慮して言わない部分が多い。子どものために、具体的な事例をもとに、支援員等の指導を担当がするよう指導したい。</p>

③子育て支援の充実

	具体的な取り組み内容 (教育方針)	実施した事業の内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み
子育てのための環境作り	おたより(園・学年・誕生会)・ホームページ等を利用して、子どものよさや成長を伝えると共に、基本的な生活習慣や社会的規範を身につけさせる場である家庭の役割を啓発していく。	にこにこにゆーすの中で保育の目的を知らせた。 誕生会の場で全体の園児と誕生児の保護者へ命の大切さや自己肯定感に繋がる話をした。	○保護者が保育活動へ関心を持つようになってきた。 ○子どもたち同士の会話に相手を思いやる言葉が増えてきた。 ●教育方針や保育の意味について、園だより等で知らせ保護者へ保育への関心を持たせたい。
	保護者が子どもとかかわる楽しさや子育ての方法が学べるように、学校心理士による子育て相談や親子で触れ合う場や子育てに関する相談や保護者間交流が気軽にできるような場を設け、その内容を工夫する。	保育参観や親子遠足で、親子でのふれあい遊びを知らせた。	○学校心理士による子育ての相談が増えた。 ○自分の子どものことについて真摯に受け止めたり、考えたりする保護者が増えきた。 ●学校心理だけではなく、園長も色々な相談に乗れるような仕組みを作っていきたい。

④子どもの成長を支える連携

	具体的な取り組み内容 (教育方針)	実施した事業の内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み
家庭や地域との連携	保護者が見通しをもって子育てができるよう、また保護者に就学前の教育についての理解と協力を得るために、保育内容等を分かり易く伝えたり、手伝いの大切さを知らせたりする。	教室に日頃の子どもの様子がわかるように写真を張り、コメントを書いた。 夏季・冬季の休み前の終業式では、子どもたちには手伝い・挨拶など日常で大切な事の話をし、毎日できるように促した。	○教室に於ける写真を使った保育のトピックスやホームページで日常の保育の様子が保護者にわかるように写真や週の様子を掲載した。 ●保育時の子どもの写真が自然体のものがまだまだ少なく感じるので、写真を意識せずに取りれるように工夫していきたい。
	地域の環境・行事等を生かした交流を行ったり、幼稚園の取組を説明したりして、地域の人の協力を得ながら、子育ての支援体制が築けるようにする。	地域の運動会に園長が出席し、一緒に参加した。	○地域の運動会に出席し、参加する事で地域とともに存在している幼稚園と印象付けることができた。 ●学校、保育所、老健等があるにもかかわらず、交流を持つ機会がなかったため、次年度以降交流が持てるようにしたい。
異校種間連携	就学前教育は、小・中学校の生活や学習につながることから、保・幼・小・中の子どもの交流や職員の合同研修等で互いの活動内容や指導方法などの共通理解を図り、一貫した取り組みを行う。	系列保育園の園長と交流の時期・内容・方法を見直す機会が持てるように計画を立て、交流保育がただ遊ぶだけではなく、意図のある交流保育に努めた。	○幼稚園と保育園の園長・主任が、連携を深めることで、お互いの保育観を高めることができた。円滑な移行をしようという意識がもてるようになってきた。 ●小学校に働きかけ、気になる子の連携をしっかりとし、気になる子が就学後小学校生活を安心して過ごせるようにしていきたい。 ●幼保連携は、職員を巻き込み時間的な面を克服し、効率の合同研修を土台に、交流活動ができるようにしていきたい。

子育て機関との連携	<p>保護者が子育て相談を気軽に利用できるよう、保育者は懇談時やその他の時も学校心理士につなげるような働きかけをするように努める。</p>	<p>学校心理士による相談だけではなく、日常の保育時も教室の様子を見て、本園と保育者そして、保護者が、連携が取れるように努めている。</p>	<p>○子育て相談に行っている保護者は、少しずつ安定してきている。</p> <p>○推進事業の特別支援教育研修に参加する事で、気になる子の捉え方が少し、変わってきた。</p> <p>●気になる子の保護者の話を全て受け入れるのではなく、子どもが自立するために協力してもらうことをはっきり伝えていきたい。</p>
	<p>諸問題の予防と早期発見、またその対応のために、地域の関係機関・施設等とのネットワークの強化を図る。</p>	<p>市の家庭相談所と連携をして、子どもの発達障害や家庭内暴力などの連携を取っている。</p>	<p>○学校心理士が定期的に来ているので、発達支援の必要な子どもに的確なアドバイスができる。</p> <p>●職員間の連携が少し甘かったので、もう少し、早く当事者と話すことで解決方法が違ったかもわからない事例があったので、連携を深めていきたい。</p>

4. 学校関係者評価

全体の評価

学校関係者からは、教職員の幼児教育に対する真摯な態度を保護者全般が高く評価していると伝えられた。

今後の課題として、人間性豊かな子どもを育てるために、教育方針や教育目標の具現化に迫り、保育の質が上がっていくことを期待する。現在は教師間での話し合いや短時間の研修で共通理解を図り、研修の継続化を図ってきたが机上の理論的な内容が多かったため、保育の質の向上に繋がるものが少なかった。今後は、事例研修や研究保育をすることで、保育の質を高め、子どもが「気付き・考え・工夫する」遊びができるようになることを期待する。このことを実践していくことで、子どもの姿に変化がでるだろうとの期待を寄せる意見があった。

5. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。